

わたしの光のいえ”
ピース・ハウスふれんず”

September 2012

Issue Number 18



| | |
|---------------------|----|
| ごあいさつ | 3 |
| ピースハウス・ホスピスケア・プログラム | 4 |
| ホスピスケアプログラムの実際 | 5 |
| ホスピスケアを受けるために | 9 |
| プログラム利用状況 | 10 |
| 各事業所概要 | 11 |
| ホスピス教育研究所の活動 | 12 |
| ピースハウスを支える活動 | 14 |



シンボルツリー：花水木

ごあいさつ

緑豊かな自然の中にピースハウス病院がつくられてから19年が経過しました。今では建物もすっかり周りの光景に溶け込み、静かな療養環境を形成しています。

日本で最初の独立型ホスピスとして、ピースハウス病院は今日までいろいろな試みをつづけてきました。その一つにボランティアを積極的に誘い入れ、スタッフと協働して患者さんのケアに当たるということがありました。町の中心地から外れた場所に位置するピースハウスは交通の便がよくないため、職員の通勤ばかりでなく、外来者の訪問にも不自由をきたすようなことがありました。それをボランティアの方々はファンドレイジングによって自動車を買入れ、ドライバーの手当てまでしていただきました。また、入院生活を少しでも快適に過ごせるようにと、毎日のティータイムにも細やかな心配りをしてくださり、入院中の患者さんやご家族の憩いの時間ともなっています。美容のサービス、マッサージのサービス、アニマルサービス、そして「句会」など、ボランティアの提供されるさまざまなサービスは、病院生活に大きな潤いを与えてくれています。

昨年の東日本大震災以降、「絆」の大切さが言われるようになっていきます。絆は人と人とのつながりですが、そこには目には見えない「愛」が介在していなければなりません。それは病院スタッフと患者さん、そしてご家族や近しい方々やボランティアの間にもつちかわれるもので、その目指すところは患者さんのQOL（生命の質・生活の質）を高めることにあります。

私たちがピースハウスで行ってきたことは、多かれ少なかれ日本の緩和ケアの先駆的な働きとして、他施設にも大きな影響を与えてきたのではないのでしょうか。

明年秋には、ピースハウスも設立20年を迎えます。これからはその20年という歳月を土台として、また新たな独立型ホスピスのあり方を追求していかねばなりません。

幸い、「ホスピス」という存在は、そのあり方も含め、広く一般の理解を得られるようになってきました。

先陣を切って誕生した「ピースハウス病院」のこれからをみなさんと一緒につくりあげていきたいと願っています。

一般財団法人 ライフ・プランニング・センター
理事長 日野原 重明

ピースハウス・ホスピスケア・プログラム

私たちは、病いや老いとともに地域で暮らす人々が、自分たちらしく安心して過ごせるように、質の高いケアを提供します。

基本方針

私たちは、

- 1) 病いや老いによる困難をかかえる人と、その家族をはじめその人にかかわる人々をケアの対象とします。
- 2) 各々が体験する心身の不快な症状の緩和と喪失や危機への対処ができて、望む場所で安心して暮らせるように、全人的ケアを提供します。
- 3) 多職種の職員・ボランティア・地域関係者がチームを構成し、互いに協力してケアを提供します。
- 4) 地域に根ざした全人的ケアのモデルとして、よりよいケアの実践・研究・教育を進めます。

「ピースハウス病院」は、主に終末期のがん患者・家族に、QOL向上・維持のためのケアを提供する独立型ホスピスとして1993年に開設されました。その後、がんに限らず、また、終末期だけでなく、家で療養する人々にケアを提供するために、1999年「訪問看護ステーション中井」が開設されました。さらに、2010年には在宅療養支援診療所「ピースクリニック中井」が開所し、相談から入院・外来・在宅でのケア、さらに遺族ケアまで、継続して支援できる体制作りを目指してきました。また、ピースハウス病院の開設とともに活動を始めた「ピースハウスホスピス教育研究所」では、ホスピス緩和ケアについての啓発・普及および、教育・研究などを行っています。



この4つの事業体が、連携、協力し、“ピースハウス・ホスピスケア・プログラム”として、地域に貢献し、「人々が病を持ちながらも安心して地域で暮らせる社会作り」を目指して、住民の皆様と、また、地域の医療福祉関係の皆様とともに活動を進めてまいりたいと考えています。ピースハウスが設立され来年には20周年を迎えます。この20年の間に日本の社会情勢は大きく変化し、医療やホスピスをとりまく状況も変わりました。しかしながら、ピースハウスが目指して来たものは揺らぐことはありません。

上に掲げる「ピースハウス・ホスピスケア・プログラム」に私たちの変わらぬ思いを表しました。大きな変化の時にある社会の中でも、だれもが大切にしたいことを実現していくためのプログラムであると信じます。

ピースハウス病院 院長 齊藤 英一

ケアの窓口 地域連携室の働き

地域連携室はピースハウス病院の相談窓口として、ホスピスがどういうところか知りたいという問い合わせから、ピースハウス病院に入院したいという相談まで、幅広い相談を日々受けています。



当院のケアをお受け頂くためには、まず地域連携室に電話をし、ホスピス相談の予約を取って頂きます。ホスピス相談は地域連携室のスタッフが相談者の方にお会いし、病状の経過や現在の状況、当院に対する要望等を直接伺いながら、入院後の生活がどうなるのか説明させて頂く場です。その時にかかりつけの病院から所定の医療情報をお持ち頂きます。ホスピス相談の後に、当院の医師や看護師を交え、我々が責任を持ってケアをお引き受け出来るのか検討会を開きます。

ホスピス=告知、というイメージがあるかもしれませんが、患者の身体状況によっては必ずしも必須条件ではありません。是非電話で相談されることをお勧めします。また将来ホスピスを検討しようと考えている方は、治療中に相談されることもお勧めしています。それは、実際自分たちが利用するかもしれない生活の場がどういうところかを、お元気なうちから見たり聞いたりして検討されるのが良いと思うこと、また入院したいと思っても待機期間があり希望時にすぐ入院出来ない場合があるからです。治療中にご相談にいらして頂ければ、良好な時期に余裕をもって検討する時間を持つことが出来ます。

「末期」と診断されなくても、残念ながらいつの日か抗がん剤等の治療の継続が困難になる時期が来るかも知れません。その時に何処でどのように過ごしたいか……。自宅、という方もいるでしょう。かかりつけの病院で最期まで診て貰いたいと思う方もいると思います。色々な方法の一つにホスピスがあります。



「ホスピスは治療をしないんでしょ?」「薬も出さないんでしょ?」と不安に思っている方、ホスピスは暗いイメージがあると仰る方がいます。私たちは、そういう方たちにこそ相談や見学をして頂きたいと思っています。ホスピス相談は色々な検討をする場ですので、どういう方法がその方たちにとって一番良いのか、ご一緒に考え、サポートさせて頂きます。

ピースハウス病院 地域連携室 吉松 知恵

ピースハウス病院

ピースハウスは安らぎの家である。
ここで時を共にする人は
皆それぞれの生き方を尊重する。

これがピースハウス病院の理念です。

縁あってここで共に過ごすこととなった方々が、「その通りのところだった」と感じていただけたなら、それは、その方自身もこの安らぎの家の作り手になってくださったということでもあるように思います。

治癒困難な病と向き合い生活することは、患者さんにとってもご家族にとっても、心身ともに辛いことが多いと思います。また、希望と不安の狭間に気持ちが揺れうごく経験をしてこられ、複雑な思いのままピースハウスのケアを受けるにいたったとしても、ピースハウスの環境やケアに少しでもほっと安心できる心地になっていただけることを願っています。

外来ケアでは、心身の状態を整えるための医師による外来診療と、生活の中での療養の工夫についての看護師やソーシャルワーカーによる相談・助言を行います。介護や介助はほとんど必要ないけれど、専門家の助言を受けながら、生活を整えていきたい方が利用されています。

入院ケアの目的には、辛い症状の緩和を目的とした入院、在宅で介護されるご家族の休息を目的とした入院（家族レスパイト入院）、患者さんご自身が今後の療養について思索することを目的とした入院（体験入院）、そして、看取りを目的とした入院に大きくは分かれます。入院に際しては、患者さんご家族とケアスタッフが、入院目的をしっかりと共有することで、安心してピースハウス病院を利用されることが重要だと考えています。

いずれの入院目的であっても、辛い症状がやわらぎ、毎日をできるだけ心地よくすごしていただけるように、食事・清潔・排泄・睡眠・気分転換などの面で必要とされる事柄に気遣いのあるケアを、また、患者さんやご家族が大事にしたいことを大事にするケアを心がけています。



看取りの後のビリーブメントケアでは、大切な方を亡くされた際に生じる悲嘆反応について知っていただくパンフレットの提供、個別の相談ニーズへの対応、しのぶ会（追悼会）を行っています。

また、入院施設がここにあることで、在宅療養される方々が、いざという時に入院ケアが受けられる安心を提供することももうひとつの重要な役割であると考えています。

ピースハウス病院 副院長 二見 典子

ピースクリニック中井

ピースクリニック中井は訪問診療に特化した在宅療養支援診療所です。定期的な訪問を行って、患者さんの健康状態や生活の様子を伺うとともに、24時間の連絡可能な体制をとって、突然の病状の変化にも対応します。中井町を中心に、二宮町、大磯町、秦野市、平塚市など、クリニックからクルマで30分程度の地域をカバーしています。これまでに180人を超える患者さんと関わり、ご自宅で最後までお付き合いさせていただいた方も80人を数えます。深刻な病気や加齢に伴う身体の衰えに直面しながら、住み慣れた環境で暮らすことを選択された患者さんとそのご家族にとっての支えとなるべく、日々の診療を行なっています。



住み慣れた自宅という場所は病める人にとって大切な場所です。家族との団欒を持ち、暖かい手料理を口にし、自分のペースで生活を送る。時には以前からの友人と交わったり、趣味の時間を持ったりすることもあるでしょう。愛するペットとの気ままなふれあいもご自宅ならではのかもしれません。しかし深刻な病気を抱え、生活を支えるために何らかの医療の力が必要な状況にあって、ずっと自宅にいることが「いちばん」ではないこともあります。体の自由が効かなくなり、家族の手をわずらわせることがつらいという方がいます。いつでもそばに医療者がいることが安心につながるという方もいます。家族が身体の手世に追われることで気持ちを通い合わせる余裕を失うこともあれば、仕事と介護の両立が難しくなることもあるかも知れません。変化する病状に合わせてご本人の思いも、周囲の気持ちも変化していきます。自宅にこだわることでかえってご自分らしく過ごせない事も出てくる場合もあります。大切なことは場所へのこだわりでなく、その人らしく過ごすこと。「療養の場の選択」という言葉はよく使われますが、大切なのは場所も含めた「療養のあり方の選択」なのだと考えています。

緩和ケアを生業とするものに求められることは、その人らしく過ごすためにどうすればいいのか、計画と一緒に考え、意思決定を支えることではないでしょうか。そのためには患者さんご家族の価値観を知り、かかわる人びとの思い（自分たちも含めて）を寄木細工のように集めていくことが必要です。これは病院でも、在宅でも、もちろんホスピスでも、ボクたちに同じように求められる役割だと感じています。幸いこの地区には在宅部門（クリニックと訪問看護ステーション中井）があり、質の高いケアを誇るピースハウス病院があります。お互いを高め合う教育研修の機会も、ホスピス教育研究所が提供してくれています。これら4事業所がお互いの強みを活かして有機的に連携することで、患者さんご家族の多様な価値観に沿った、幾つかの選択肢を提供できるはずですよ。

症状緩和も、身体のケアも精神的なサポートも、このための強力なツールになるのだらうと思います。

クリニックでは在宅の場における緩和医療のプロフェッショナルとして、患者さんと家族の側にそっと立っていて、必要とされたときにきちんと応えられる存在になりたいと考えています。さらに他の事業所と互いに補完しつつ、「hospice at home」を実現していくことができたらと思っています。

ピースクリニック中井 院長 永山 淳



訪問看護ステーション中井

私たちは、癌の末期の方だけではなく、慢性疾患や神経難病等、病気の種類や時期、年齢に関わらず、在宅療養を希望している方のお宅へお伺いしています。具体的には、血圧や体温測定などの状態観察、栄養・清潔・排泄・睡眠の支援、リハビリ、ご本人の精神的支援、介護者の支援など、ケア内容は多岐にわたります。そして希望された方にはいつでも相談や訪問ができるよう、交代で24時間の当番体制を組んでいます。



昔は在宅で看取るのが当たり前でした。しかし高度成長期を終え、少子化、高齢化の道をたどり、家族形態が変化し、病院で最期を迎える時代となっています。それは病院・施設の充実や介護する家族の負担などの理由が挙げられますが、反面、どこで死を迎えたいかと聞くと、自宅だと答える人が多いのも事実です。でもかなえられない理由は何なのか……。やはり、様々な不安、心配があります。

私たち訪問看護師は在宅看護を看護の原点だと考え、ご利用者をご自宅でよりよい療養ができるように、できる限りの支援をしていきます。身体的な事、心理的な事、社会的な事等その方がもつ苦痛を正面からとらえ、解放を目指しつつ、心身ともに安楽に、そして自宅にいても安心と思いながら過ごせるようケアを行っています。そのケアは私たちが利用者や家族の方とお会いした時から始まっています。

先日も開業医から紹介され、ステーションに来訪された方がいらっしゃいました。つらい事、不安だったこと等を話して下さり、訪問看護でこういう事が出来ますとご紹介差し上げたところ、ご家族の方は表情も明るくなり、早く来てください、お願いしますと帰って行かれました。不安を抱えているご家族

は藁をもつかむ思いでおられるので、一筋の光が見えたのではないのでしょうか。

私たちは他にも居宅支援事業も行っています。これは介護保険で利用できるサービスの調整等を行う橋渡し役です。年齢、病気等で利用できない方は限られますが、訪問看護以外のサービスを合わせて利用したい方のお手伝いもしています。

ステーションは病気を抱えた方が何でも相談できる地域の相談相手、そんな存在でいたいと思っています。



訪問看護ステーション中井 管理者 田中美江子

ホスピスケアを受けるために

ピースハウス病院は、主に治癒が困難ながんの患者さんとご家族に、ホスピス緩和ケアを提供する病院です。入院によるケアだけでなく、外来診療、また、ピースクリニック中井・訪問看護ステーションと協力して、在宅ホスピスケアも行なっています。

ケア開始にあたり、ホスピス緩和ケアについてご理解頂くことと、患者さんの現在のご様子について事前に把握させて頂くため、患者さんやご家族と面談の機会を設けております。

相談の窓口

ピースハウス病院では、下記の相談についての相談窓口を設けています。

1. 入院に関する相談
2. 外来や訪問診療に関する相談
3. ホスピスに関する一般的な相談
4. ホスピスケアを受けながらの生活に関する相談

これらの相談窓口は、ソーシャルワーカーや看護師が担当しております。また、ホスピス相談には予約が必要ですので、まずは、電話でご連絡下さい。
電話 0465-81-8900 (代)

相談に必要な医療情報

相談に来院して頂く際には、以下の4点の医療情報が必要です。

1. 診療情報提供書 (各医療機関の用紙)
2. 最近の検査データ (血液・尿検査・感染症・血液型を含む)
3. 現在の症状が判るレントゲンやCTなどの画像情報
4. ホスピスケア判定用質問用紙 (当院様式)

入院までの流れ

相談からケア開始までの流れは以下の通りです。

1. 電話による相談 (ホスピス相談の予約)
電話 0465-81-8900 (代)



2. ホスピス相談



3. ホスピスケア判定会議
(当院スタッフがケアの開始に必要な事柄について検討)



4. ホスピスケアの開始
(入院に関しては、判定会議からケア開始までベッドを待つ期間が生じる場合があります)

なお、ピースハウス病院では、病名告知は必須条件ではありません。患者さんが治癒困難である病状であることを認識し、ホスピスの趣旨を理解されていれば、ピースハウスでのケアを受けることができます。

入院費用

医療費に関しては健康保険が適用されます。患者さんによって、高額療養費制度や高齢者医療制度が利用できます。また、保険適用外として、差額ベッド代があります。(4人部屋は差額ベッド代なし)

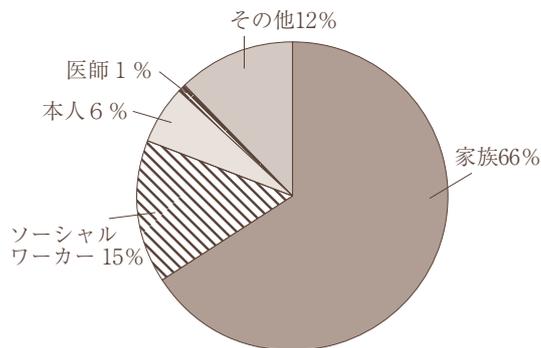
当院に関する情報はインターネットでもご覧頂けます。<http://www.peacehouse.jp/>

2011年度の相談状況

相談件数：896件

内 訳

| | | | |
|------------|------|--------|------|
| 家 族： | 588件 | 医 師： | 12件 |
| ソーシャルワーカー： | 136件 | そ の 他： | 110件 |
| 本 人： | 50件 | | |



プログラム利用状況 (2011年4月～2012年3月)

ピースハウス病院 入退院状況

- (1) 入院患者数 170名 (延べ183名)
- (2) 男女別 男84名 女86名
- (3) 年齢 42歳～97歳 平均71.3歳
- (4) 平均在院日数 31.7日
- (5) 疾患 (悪性新生物原発部位)

| | | | | | |
|------------|----|------|----|-----|----|
| 肺 | 39 | 胃 | 17 | 膵 | 13 |
| 肝・胆道 | 13 | 直腸 | 10 | 結腸 | 10 |
| 食道 | 8 | 子宮 | 8 | 前立腺 | 6 |
| 腎・尿管 | 6 | 咽・喉頭 | 5 | 乳房 | 5 |
| 膀胱 | 5 | 卵巣 | 3 | 脳 | 3 |
| 口腔(舌、歯肉など) | 1 | 原発不明 | 7 | その他 | 11 |

(6) 紹介元医療機関

| | |
|---------------|----|
| 東海大学医学部付属病院 | 36 |
| 東海大学医学部付属大磯病院 | 14 |
| 小田原市立病院 | 13 |
| 平塚共済病院 | 12 |
| 平塚市民病院 | 11 |
| 神奈川病院 | 9 |
| 秦野赤十字病院 | 6 |
| 足柄上病院 | 5 |
| 静岡県立静岡がんセンター | 4 |
| 北里大学東病院 | 3 |
| 山近記念病院 | 3 |
| 藤沢市民病院 | 3 |
| 生協おだわら診療所 | 3 |
| ピースクリニック中井 | 3 |

〈以下 各2件〉

伊勢原協同病院・国立がんセンター・丹羽病院・白鷗病院 (順不同)

〈その他37施設 各1件〉

(7) 患者住所分布

| | | | | | |
|------|-----|-----|---|---|---|
| 神奈川県 | 159 | 東京都 | 7 | 他 | 4 |
|------|-----|-----|---|---|---|

(8) 神奈川県の内訳

| 湘南西部 | | 県西部 | | 県内その他 | |
|------|----|------|----|-------|----|
| 平塚市 | 27 | 小田原市 | 35 | 27 | |
| 秦野市 | 22 | 足柄上郡 | 11 | | |
| 中郡 | 16 | 南足柄市 | 4 | | |
| 伊勢原市 | 15 | 足柄下郡 | 2 | | |
| 小計 | 80 | 小計 | 52 | 小計 | 27 |

ピースクリニック中井 訪問診療実績

- (1) 利用者数 87名
- (2) 男女別 男50名 女37名
- (3) 年齢 9歳～96歳 中央値77歳
- (4) 症例内訳 疾患内訳

| | | | |
|----|----|-------|----|
| 小児 | 3 | 悪性新生物 | 59 |
| 成人 | 84 | その他 | 28 |

(5) 転帰

| | (人) | (%) |
|------|-----|-----|
| 訪問継続 | 19 | 22 |
| 訪問終了 | 68 | 78 |

終了理由

| | |
|--------------------------|---------|
| 在宅死亡 | 35 |
| 転院死亡 (うちピースハウス病院での死亡) | 27 (13) |
| その他 | 6 |

(6) 紹介元医療機関

| | |
|---------------|----|
| 東海大学医学部付属病院 | 28 |
| 東海大学医学部付属大磯病院 | 16 |
| 平塚市民病院 | 7 |
| 秦野赤十字病院 | 5 |
| 神奈川病院 | 3 |
| 平塚共済病院 | 2 |
| 慶應義塾大学病院 | 2 |
| その他 | 21 |

(7) 訪問地域

| | | | | | |
|-----|----|-----|----|-----|----|
| 秦野市 | 30 | 大磯町 | 20 | 二宮町 | 18 |
| 平塚市 | 9 | 中井町 | 6 | その他 | 4 |

訪問看護ステーション中井 訪問看護実績

- (1) 利用者数 87名
 (2) 男女別 男39名 女48名
 (3) 年齢 39歳～98歳 中央値82歳
 (4) 介護度

| | (人) | (%) |
|---------|-----|-----|
| 要介護3以下 | 43 | 49 |
| 要介護4 | 14 | 16 |
| 要介護5 | 21 | 24 |
| 介護保険対象外 | 9 | 10 |

(5) 対象主疾患

| | (人) | (%) |
|-------|-----|-----|
| 悪性新生物 | 26 | 30 |
| その他 | 61 | 70 |

(6) 転帰

| | (人) | (%) |
|------|-----|-----|
| 訪問継続 | 48 | 55 |
| 訪問終了 | 39 | 45 |

終了理由



| | |
|----------------|----|
| ピースハウス 病院入院 | 6 |
| 他院入院 | 14 |
| 自宅で死亡 | 14 |
| その他 | 5 |

(7) 指示書依頼先

| | (人) | (%) |
|--------------------------|-----|-----|
| ・ピースハウス病院 ・ピースクリニック中井 | 22 | 25 |
| ピースクリニック中井以 外の在宅支援診療所 | 16 | 18 |
| 在宅支援診療所以外の 開業医院 | 14 | 16 |
| 総合病院 | 35 | 40 |

(8) 訪問地域

中井町・二宮町全域
 秦野市・平塚市・小田原市の一部

各事業所概要

◆ピースハウス病院◆

〒259-0151

神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1

電話 0465-81-8900 FAX 0465-81-5520

<http://www.peacehouse.jp>

病床数：22床

スタッフ：専任医師3名、看護師22名、看護助手4名、薬剤師2名、MSW1名、チャプレン1名、音楽療法士1名、管理栄養士2名、キッチンスタッフ6名、事務員4名、ハウスキーパー7名、ボランティアコーディネーター1名、ボランティア92名

◆ピースクリニック中井◆

〒259-0151

神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1

電話 0465-81-3900 FAX 0465-81-3910

<http://www.peaceclinicnakai.jp>

診療時間：月～金 9：00～17：00

土日祝祭日 休診

緊急時24時間対応

スタッフ：医師1名、事務員1名

◆訪問看護ステーション中井◆

〒259-0151

神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1

電話 0465-80-3980 FAX 0465-80-3979

<http://www.5a.biglobe.ne.jp>

業務時間：月～金 9：00～17：30

緊急時24時間対応

スタッフ：看護師5名、事務員1名

◆ピースハウスホスピス教育研究所◆

〒259-0151

神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1

電話 0465-81-8904 FAX 0465-81-5521

<http://www7.airnet.ne.jp/peace-h/>

業務時間：月～金 9：00～17：40

スタッフ：4名

2011年度ホスピス教育研究所の活動

ピースハウスの2階に位置するホスピス教育研究所は、神奈川県をはじめ全国に向けてのホスピス緩和ケアに関する教育プログラムの提供、院内スタッフ・ボランティアの教育、さらに、国内外の他施設・団体とのネットワーク作りなどを主な業務としています。

また、「日本ホスピス緩和ケア協会」事務局として、年次大会・理事会・専門委員会の開催、全国の緩和ケアの現状調査、講演会の開催、機関紙の発行などを並行して行っています。

ホスピス教育研究所 所長 松島 たつ子

1. ターミナルケア人材育成講座の開催

| 講座名 | 期日 | 日数 | 講師(所属) | 参加者数 |
|--|------------------|----|---------------------------------------|------|
| ホスピス緩和ケア講座 | 2011年5月～7月 | 4 | 西立野研二(ピースハウス病院 院長) 他11名 | 延186 |
| ホスピスセミナー 患者の意向を尊重した終末期医療のあり方 —意思決定のプロセスを支える— | 2011年9月 | 1 | 木澤義之(筑波大学大学院人間総合科学研究科 講師) | 58 |
| ホスピスセミナー 予後が週単位となった患者のケア | 2011年10月 | 1 | 黒田俊也(みなの赤十字病院緩和ケア科部長) | 83 |
| ホスピスセミナー がん患者の精神症状の捉え方と治療の基本 | 2011年11月 | 1 | 加藤雅志(国立がん研究センターがん対策情報センター がん医療支援研究部長) | 51 |
| ホスピスセミナー 予後が週単位となった患者のケア | 2012年2月 | 1 | 黒田俊也(みなの赤十字病院緩和ケア科部長) | 87 |
| ホスピスセミナー がん患者と家族への心理社会的支援 | 2012年3月 | 1 | 福地智巴(静岡県立静岡がんセンター 疾病管理センター よろず相談主幹) | 55 |
| 春期ボランティア講座 | 2011年5月～7月 | 6 | 志村靖雄(ボランティアコーディネーター) 他7名 | 9 |
| 秋期ボランティア講座 | 2011年10月～2012年1月 | 6 | 志村靖雄(ボランティアコーディネーター) 他7名 | 10 |
| ボランティアアドバンス講座 | 2011年7月～2012年3月 | 4 | 大森有美(ピースハウス病院 看護師) 他3名 | 延150 |
| ホスピス公開セミナー (対象:ホスピスケアに関心を持つ個人など) | 2011年5月～2012年2月 | 6 | 瀬戸ひとみ(ピースハウス病院 がん性疼痛看護認定看護師) | 延107 |
| ホスピス公開セミナー (対象:民生委員, ボランティア団体など) | 2011年9月～2012年3月 | 4 | 鈴木千介(ピースハウス病院 顧問) 他1名 | 延123 |

2. 第19回ホスピス国際ワークショップの開催

開催日: 2012年2月4日(土)・5日(日)

開催場所: ホスピス教育研究所

テーマ: 喪失と悲嘆—喪失の悲しみ, 苦難を越えて—

講師:

- ・ Dr. Cynda Hylton Rushton
Professor of Nursing, Johns Hopkins University, US
Core Faculty, the Berman Institute of Bioethics Co-Chair, the Johns Hopkins Hospital's Ethics Consultation Service
- ・ Dr. Leora Kuttner
Clinical Psychologist
Clinical Professor, the Department of Pediatrics, BC Children's Hospital,
University of British Columbia, Vancouver, Canada



左: Dr. Leora Kuttner
右: Dr. Cynda Hylton Rushton

内容:

- 第1日目
 - ・ 喪失と悲嘆の変換
 - ・ 喪失と悲嘆: 愛情と苦悩の関係
 - ・ 苦悩の変換と希望の繋留
- 第2日目
 - ・ 悲嘆・喪失の最中にある家族と子どもの援助
 - ・ ヘルスケアチームの喪失・悲嘆

・悲嘆する人を支援するヘルスケアシステム
参加人数：108名

3. 研修生の受け入れ

- ①医療職のためのホスピス緩和ケア研修（計9名）
亀田総合病院 医師（1），平塚市民病院 医師（8）
- ②日本看護協会「ナースのためのホスピス緩和ケア研修」（計10名）
千葉徳州会病院（1），昭和大学横浜市北部病院（1），相良病院（1），総合南東北病院（1），熱海所記念病院（1），津島市民病院（1），愛知県がんセンター中央病院（1），湯布院厚生年金病院（1），愛知県がんセンター愛知病院（1），淀川キリスト教病院（1）
- ③神奈川県看護協会「緩和ケア認定看護師教育課程」臨床研修（計4名）
藤沢市民病院（1），千葉医療センター（1），横須賀共済病院（1），東邦大学医療センター大森病院（1）
- ④医学生のためのホスピス緩和ケア研修（2名）
東海大学医学部（2）
- ⑤ホスピス体験実習（計19名）
神奈川県立七里ヶ浜高等学校（5），神奈川県立秦野曾屋高等学校（2），麻布学園麻布高校（6），ルーテル学院大学（1），東京薬科大学（4），聖路加看護大学（1）

4. ピースハウス見学者への対応 33件 316名

主な見学団体

神奈川県立がんセンター，聖隷佐倉市民病院，長岡西病院，衣笠病院，神山復生病院，三輪医院，森本医院，社団法人平塚中部薬剤師会，神奈川県社会医療事業協会，自治医科大学大学院，ルーテル学院大学，玉川学園高等学校，麻布学園，大磯恒道会もとまちの家，講談社など

5. 研究会の開催

- ①事例検討会
期 間：2011年4月～2012年2月（9回）
延参加人数：177名
主なテーマ
・レスパイト入院の実践とその効果
・認知症高齢者の終末期ケア
・信頼関係の構築に困難を感じた妻への関わり
・中心静脈栄養・経管栄養を断った通過障害を伴う食道がんの例
・倦怠感のある患者のケア
・痛みの緩和に難渋した事例
・「転んでもトイレに行きたい」と訴えた患者のケア

－排泄介助を受けるということ－

・家族の中心的存在を失うとき

②ホスピスケア研究会

期 間：2011年5月～2012年1月（7回）

延参加人数：49名

主なテーマ

- ・ホスピスの理解と啓発活動
- ・「相手を思いやること」について
- ・別れの準備
- ・音楽療法士のできること

③ Study Day 症状マネジメントを学ぶ

期 間：2011年5月～2012年2月（4回）

延参加人数：50名

主なテーマ

- ・患者さんの安楽を支える
- ・摂食嚥下の基礎を振り返る
- ・思春期の家族にどう関わるかを考える
- ・リンパ浮腫とリンパドレナージを学ぶ

④地域緩和ケア研究会

期 間：2011年4月～2012年1月（5回）

延参加人数：235名

主なテーマ

- ・がん診療連携拠点病院における緩和ケアと地域連携
- ・病状の進行に葛藤を抱えている家族への支援
- ・高齢者へのケア
- ・一般病院における緩和ケアと地域連携
- ・在宅療養支援診療所における緩和ケアの実践

⑤高齢者ケア部会

期 間：2011年7月～2012年2月（5回）

延参加人数：121名

主なテーマ

- ・高齢者に起こりやすい症状に対するケア〔脱水〕他
- ・これからの在宅での倫理の話をしよう
- ・胃ろうについて考えよう
- ・サービスが終了したときのまとめと振り返り

6. 図書・文献整備

購入図書 16冊

定期購読雑誌 13誌（洋雑誌7誌・和雑誌6誌）

7. 研究所会員制度（図書貸出など）

会員数 20名（医師9名，看護師3名，理学療法士2名，ソーシャルワーカー1名，大学教員1名，ケアマネジャー1名，薬剤師1名，他2名）

8. 機関誌発行

ピースハウス活動報告（ふれんず Issue No.17）

4,000部

ピースハウスを支える活動

◆ボランティアをする

あなたの大切な時間と能力を、より良いホスピスケアのために提供していただけませんか。

ピースハウスでは約100名のボランティアがケアチームの一員として活動しています。ボランティアをする方は、毎年春と秋に開催されるボランティア養成講座を受講し修了証を手にしていただきます。

活動は、週1日（10：00～17：00）予め約束した曜日に無償で奉仕していただくことが原則です。

おもな活動内容

- 1) ホスピスにおける患者・家族の暮らしを支える活動
内外の環境整備・看護補助・アートプログラム開催・ティータイムサービスなど
- 2) 専門的にかかわる特技ボランティア
シャトルバス運転・マッサージ・美容・園芸・営繕など



◆院外から支援する

あなたのあなたらしい方法でご支援いただけると幸いです。

ボランティアとして直接チームケアにはかかわれないが、外部から間接的に支援してくださるグループまたは個人の活動があります。下記にいくつかご紹介します。



- * LPC ホスピスサポートチーム：会員の寄付金やイベント、書籍販売などの収益金でシャトルバスの購入や運行を支援
- * 府中はなみずき：バザーで活動資金を作って、手作りの介護用品や備品を提供
- * 姫由美子コンサート：チャリティコンサートを開催、収益を寄付

その他、ふれんずショップ（ボランティアショップ）への手作り品の提供、介護用古布の提供、イベントへの参加など、数え切れないほどの善意の方々やグループからご支援を頂いています。

◆お金を寄付する

あなたのお金が日本のホスピスケアのモデルとなるピースハウスの活動を実現します。

これまで多くの皆様のご支援により、1993年、ピースハウス病院とホスピス教育研究所を開設し、1999年に訪問看護ステーション中井、2010年にはピースクリニック中井を開設することができました。病気をもちながらも自分らしく生きる患者さんとそのご家族が、希望する場所で、質の高いケアを継続的に受ける。このような活動をさらに充実させていくためには、皆様方のお力添えが必要です。あたたかいご協力をお待ちしています。

1. 寄付の種類

1) 継続的な寄付

「ピースハウス友の会」の会員となって、継続的にご支援いただく方法です。これは年会費という形で毎年寄付を継続して下さる方々の会で、次の4種類があります。

| | |
|---------|--------|
| さくら会員 | 1万円 |
| ばら会員 | 3万円 |
| はなみずき会員 | 5万円 |
| かとれあ会員 | 10万円以上 |

* 会員の種別は毎年ご自由にお選びいただけます。

* 1年に一度、ピースハウス病院の活動のご報告をお送りするとともに、会員継続のご意向についてお伺いいたします。



2) 随時の寄付

時期を特定せず、任意の金額を提供していただく方法です。

2. 寄付の方法

ご寄付いただける場合は、下記までお振込みください。お手数ですが、振込みに際しましては、通信欄に「〇〇会員」か「随時の寄付」かをご記入ください。

| | |
|-------|--------------------------------------|
| [振込先] | 郵便振替口座 00130-6-407939 |
| | 加入者名 (財)ライフ・プランニング・センター ピースハウス募金口 |

ピースハウスを支える活動については下記にお問い合わせ下さい。

TEL : 0465-81-8900 FAX : 0465-81-5520

E-mail : ph_voco@yahoo.co.jp

担当 : ボランティアコーディネーター 志村 靖雄

2011年度収支報告

2011年度の入院患者は183名、延べ5,848人、1日当たり平均在院患者数は16.0人、平均ベッド稼働率は72.8%でした。前年度比いずれも低下しました。

| | |
|----------|------------|
| 事業収入 | 292,675 千円 |
| 事業支出 | 331,685 |
| 当期事業収支 | ▲39,010 |
| 経常外収支 | 9,162 |
| 寄附金・会費収入 | 14,901 |
| 当期収支 | ▲14,947 千円 |

寄付報告

| | | |
|-----------|------|-----------|
| 運営のためのご寄付 | 76件 | 7,181 千円 |
| 友の会会費 | 161件 | 2,920 千円 |
| さくら会員 | 126件 | 1,260 千円 |
| ばら会員 | 17件 | 510 千円 |
| はなみずき会員 | 13件 | 650 千円 |
| かとれあ会員 | 5件 | 500 千円 |
| 合計 | 237件 | 10,101 千円 |



一般財団法人
ライフ・プランニング・センター
ピースハウスホスピス

〒259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1
TEL 0465-81-8900 FAX 0465-81-5520
ホームページ <http://www.peacehouse.jp/>